

学校法人 滋慶学園 東京メディカル・スポーツ 専門学校 自己点検自己評価

平成25年度自己点検自己評価(平成25年4月1日～平成26年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1		
1 教育 理念・ 人材 像 目的 ・ 育	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3	学園の目指す方向をふれずに示すことが大切と考えている。教職員がその考えを理解し、学生にも伝えることが学校の目指す人材を育成すると考える。	滋慶学園は職業人教育を通じて社会に貢献することをミッションに掲げ、一人ひとりを大切に、業界に直結した専門学校を目指しています。
	1-2 学校の特徴は何か	3	国家資格取得率100%と退学率0%を5年後には達成することを目指している。入学した学生がすべて自分の目標とした資格を持って卒業し、その分野で就職させることが大切なことと考えている。	「医療資格+スポーツ」でプロ・アマチュアのスポーツ業界とリハビリ医療の業界で活躍する医療人を輩出することを目指しています。
	1-3 学校の将来構想を抱いているか	3	常に事業計画で5年先を見据えて計画をたてている。事業計画は、学校責任者、常務、理事長とすべてが目を通し、最終的に教職員に広められる。将来の構想を必ず明確にして、運営されている。	
2 学校 運営	2-4 運営方針は定められているか	3	運営方針は学校の将来を決める重要な事柄と考える。そのため作成には、10月～3月まで学校責任者が中心になり時間をかけ作成される。職員への伝達もスタート式(3月に教職員全体で行う研修)で数日かけて実施し、その後の運営会議や全体会で何度確認する時間を作っている。	
	2-5 事業計画は定められているか	3	毎年事業計画は作成されて、経済状況や環境により柔軟に対応している。また作成には、10月～3月まで学校責任者が中心になり時間をかけ作成される。職員への伝達もスタート式で数日かけて実施し、その後の運営会議や全体会で何度も確認する時間を作っている。	
	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	3	会議を大切に考えている。利害関係者を集め漏れがないように討議し、実行に移している。	
	2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	2	学園本部が採用を担当し、採用者の適正を見て各校に配属している。また賃金などに関しても本部が一括管理して評価についても一元化している。	
	2-8 意思決定システムは確立されているか	2	上位会議から各部署の会議まで、定例で実施し意思決定をしている。会議の研修を実施するなど意思決定機関として精度を上げている。	
	2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2	教職員が学校貸与のPCを持ち、システム化により情報を共有している。また業務の効率化にも努めている。	教職員向けのパソコン講習会なども開催し、常にスキルアップを目指している。平成25年度より、学園をあげてITリテラシー教育を教職員・学生向けに実施している。テキストをもとにした講義および理解度テストを実施。合格者には「認定ロゴ」の発行をしている。

3 教育活動	3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	2	各分野のリーダー的な存在である講師陣を交えたプロジェクトチームを結成し、業界の求める人材像をあらわすキーワード・学科の課題のキーワードを抽出して毎年、養成目的・教育目標の見直しを毎年実施している。	各業界のリーダー的な存在の講師との連携を強化し、常に養成目的・教育目標の改訂を常に意識している。25年度に教育課程編成委員会が立ち上がり業界の方々からの意見が直接聞けるようになり、よりいっそう業界ニーズを取り入れられるようになった。
	3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	2	各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられていると考えている。 各学科の教育目標、育成人材像は、常に業界のニーズを反映させるため、業界調査、学科調査、競合校調査を毎年秋季に行い、そこで現れる業界ニーズに確実に応えられる教育目標、育成人材像を設定している。 また、各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められている。	人材ニーズの変化や業界そのものの変化に伴う学科の養成目的/教育目標の見直しやカリキュラムの再構築に専断的に関わるFDC(ファカルティ・ディベロップメントコーディネーター)が組織されており、定期的にFDC会議の中で学科の運営状況をチェックする機能を持っている。 また、目標を段階ごとに明示し、学習のステップを学生に常に理解させている。このため、目標への動機づけを行いやすい。
	3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか	2	カリキュラムの編成に関しては、4つの教育システム(PCP教育システム、(PI)教育システム、MMPプログラム、タワー型カリキュラム)によって、体系的な形を保たれている。上記より、学科のスタート(入学前)からゴール(卒業後、就職)までに必要な学習内容と学習期間、及び学習ステップを勘案したカリキュラム体系を構築できていると考える。	特に専門知識・技能(プロフェッショナルプログラム)については更に3つの科目群(学科の課題となるキーワード)に分け、それぞれに対応した科目を位置付けている。 学科長、FDC(ファカルティ・ディベロップメントコーディネーター)が主としてコーディネートしている。 それを受けて、学園の諮問機関にプレゼンをし、素案の内容を精査し、実行カリキュラムの完成となる。 養成目的・教育目標・学年目標・学期目標などその時期ごとの到達目標を明確にすることに重点を置いている。
	3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	3	養成目的・教育目標を明確に定め、そこから遡るようなかたちで、学期ごとの到達目標を明確に定めている。このことにより学期目標を達成するために必要な科目を設定することにより適正な配置がなされている。	
	3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	2	キャリア教育の推進に伴い、中途退学は減少傾向にあり。5年度には、中途退学者0名の見込みも立ち、毎年検証することでこの数字は達成可能である。 また、就職指導において就職希望しない学生は数名いるが、この数も0名が可能な状況が見えている。	1. 24年度から1年生を対象に導入教育を年4回実施。6月実施内容の学生満足度はかなり高いものがあつた。 2. 1年生を対象に、キャリアセンター主催で「キャリアアッププログラム」の一環で、未来履歴書の作成などを実施。
	3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか	2	学科の各科目は、MMPプログラムによって、その内容、関連性から適正な位置づけを行うことができている。 また、授業アンケートと、オープン授業を通して、授業評価を実施している。授業評価の視点として、受ける学生の視点と、行う講師の視点の2つを重視している。 授業アンケートによって学生からの、オープン授業によって講師からの授業評価を行っている。	アンケート内容は下記の4項目に自由意見を加えた形式としている。 ① 板書は読みやすい…1、とても読みやすい 2、読みやすい 3、普通 4、読みにくいことがあつた 5、いつも読みにくい ② 話は聞き取りやすい…1、とても聞き取りやすい 2、聞き取りやすい 3、普通 4、聞き取りにくいことがあつた 5、いつも聞き取りにくい ③ 授業は理解できる(分かりやすい)…1、とてもわかりやすい 2、わかりやすい 3、普通 4、わかりにくいことがあつた 5、いつもわかりにくい ④ 授業は興味もてる(おもしろい)…1、とても興味もてる 2、興味もてる 3、普通 4、興味もてないことがあつた 5、いつも興味もてない
	3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	2	学科の育成目標を達成するために、講師がその分野のスペシャリストであること、また、同時に講師要件を満たしていることを講師採用において重点を置いている。採用決定の講師は、講師会議、科目連絡会を通して、授業運営に対する情報の共有化、成功事例の共有、また、学校側の考え、希望する方向性、養成したい学生像を共有し、問題・情報の共有、解決につなげている。	講師への共有資料: ①学科職務分掌、②担当業務スケジュール、③学年暦、④講師担当科目一覧、⑤講師別時間割、⑥教育指導要領、⑦科目シラバス
	3-16-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか	2	学園、所属グループ、学校、外部と主催はさまざまではあるが、教職員の資質・専門性を向上させるための研修を企画運営している。これらの研修は、経験により指定で受講するものと今人の希望により受講するものとがあり、より主体的に研修に参加できるようにしている。	研修後の現場での活用等を確認するための、スーパーバイズを受けられる制度もあり、特に新任専門職職員のスキル向上に役立っている。
	3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3	成績評価及び単位認定の基準は学則に定めており、その基準を基に成績を算出している。	
3-18 資格取得の指導体制はあるか		3年次に通常授業に国試対策講座を入れている。また、別に2年次、3年次に宿泊セミナー(1)を実施している。また、不合格者に対しては、トライアルコース(2)として、卒業生が聴講できる授業を開講している。 また、滋慶学園内に国家試験対策センター(3)を設置し、姉妹校と連携を取りながら確実な国家資格取得を目指している。	(1) 宿泊セミナー…受験対策の一環として行う宿泊型の集中授業。2年次は1泊2日、3年次は2泊3日のスケジュールで行う。環境を変えることで集中して国家試験対策に取り組むことを目的としている。 (2) トライアルコース…国家資格不合格の卒業生を対象に年15回(平成24年度)講座を開き、国家資格合格まで費用はほぼ無料で実施している。基礎講座、応用講座および模擬試験を実施し、合格力向上の講座にしている。 (3) 国家試験対策センター…滋慶学園の国家試験受験学科を対象に、合格率の向上を目的とした組織。	

4 教育 成果	4-19 就職率(卒業生就職率・求職者 就職率・専門就職率)の向上が 図られているか	2	就職率に関しては開講以来就職希望者内定100%を維持できている。 高めた目標である就職者率と専門就職率も共に90%を超える数値で、高い水準を 満たしている。 これらはキャリアセンターと学科が、年度当初の目標設定から学生の内定獲得まで、 常に連携しながら活動をしている成果である。また近年は、離職率の数値も把握する ようにしている。学生に納得した就職先を斡旋するとともに、就職先にも学生のことを よく理解してもらうことを心がけている。	キャリアセンター…就職に関する相談室を「キャリアセンター」という名称で設置して いる。キャリアセンターの目的は ① 入学希望者に卒業後の就職イメージを持ってもらう: 入学希望者には、具体的な 仕事の内容を理解してもらい、安心して学校を選んでもらえるようにする。 ② 在校生に対しての就職支援: 在校生には面接時におけるスキルアップ指導や、 筆記試験対策の実施等をサポートし、プロ意識を養い育てていく。 ③ 同窓生(卒業生)のキャリアアップ支援: 卒業後の同窓生には就職した後にさら なるキャリアアップを考え、マネージメントやコーチング などの実務レベルのスキル アップや、再就職支援を実施している。
	4-20 資格取得率の向上が図られて いるか	2	100%を目標としている。これは、入学した学科では、国家試験を取得することが将来の 仕事に通じるという特性があるため、入学した学生には国家資格は取得させ ることが学科のミッションとなっている。 各学科で資格取得の目標を達成するために、対策を立て、実行している。 しかし現状は一部の新しい学科で全国水準を未だ下回っているため、まずは全国水 準に引き上げ、目標達成までつなげるための対策の実行が課題である。	資格特別講座を、各資格で必ず取り入れている。
	4-21 退学率の低減が図られているか	2	専門学校の退学者率の水準が一般に10%と言われている中で、本校の低減度合 はかなり高いレベルにあると思われる。	
	4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍 及び評価を把握しているか	2	卒業生の社会での活躍は年々大きくなってきている。 大きなプロジェクトの参画から、治療院開業など、学生時代に習得した知識・技術を 活かした専門職に着いている。卒業生の活躍は求人票の多さにも現れている。 在校生は、実習活動を通して社会で活躍している。 今後は卒業生の活動を確実に 学校として把握することと、在校生の活躍の場を広げていく取り組みが必要と考えて いる。	
5 学生 支援	5-23 就職に関する体制は整備されて いるか	2	就職100%にするためには、全体指導と個別指導を併用し、時期にあわせた対応が 必要である。年間計画を立てて実施している。	時代とともに、様々な性格の学生が増えているが、入学した学生が全員専門職に 就職できるように、1年間をかけて指導している。
	5-24 学生相談に関する体制は整備さ れているか	2	滋慶トータルサポートセンター(JTSC)を設置し、①精神面②学費③健康面などの 相談をいつでも受け入れる体制は既に整備され、しかも有効的に機能していると考え ている。 全教職員が「JESCカウンセラー資格」を取得し、カウンセリングマインドを持ち相談 に乗っている体制を築き上げている。 学生相談体制はかなり高いレベルであり、それが、近年の退学率減少に結びついて いると考えている。	教職員全員が、カウンセリングマインドを持ち学生支援を行えるよう研修会&カウ ンセリング資格制度を実施。特に、カウンセリング研修では学園内組織(滋慶科学教 育研究所)が主催する「JESCカウンセラー資格」を全員に受講させ試験を実施する ことでカウンセリング技術の均一化を図る。 心理学/カウンセリング基礎知識習得を行うことで、学生相談室との連携が非常に スムーズにしている。
	5-25 学生の経済的側面に対する支 援体制は整備されているか	2	学生の経済的側面の支援は、かなり高いレベルで出来ていると考えている。特に、F A(フィナンシャルアドバイザー)が学費相談会の実施によって、事前に学費相談を受けら れ、資金のやり取りをアドバイスできている。 参加する保護者も多く、相談内容が難しくなっているため、その対応をする担当者も スキルアップが必要と考える。	【予約採用サポートシステム】この制度は、日本学生支援機構を利用し、奨学金の 採用決定月額で授業料の分納支払いをサポートするシステムである。毎月本人の 指定講座へ振り込まれる日本学生支援機構奨学金を授業料に充当している。 【各種特待生・奨学制度】AO特待、スポーツ奨学生、兄弟姉妹学費免除制度
	5-26 学生の健康管理を担う組織体制 はあるか	2	「慶生会クリニック」や「滋慶トータルサポートセンター」が学生の体と精神面の健康 管理をしており、学生の健康管理を担う組織体制は確立されている。 「慶生会クリニック」は内科・歯科の2科があり、学校からも近く寮などから通う一人暮 らしの学生も利用しやすく、健康管理費の中から支払いが行われるので、安心して受 診できる体制が、かなり高いレベルで機能していると考えている。 また、一人暮らしをする学生についても、学生寮や生活アドバイザーが学生の生活 面を見ている。どの組織も学校と(特に担任)連携を取り、学生の変化などには気を 配り注意している。	【禁煙指導】 本校は、「健康管理のプロを養成する」ことを目的としているので、健康に悪影響を もたらし喫煙については、認めていない。入学時に面接で学校の考えを説明し、納 めて入学している。職員や講師にも勤務中は禁煙に協力していただいている。対 人援助職に就く意味でも対象者にいやな気持ちにさせることは、仕事上マイナスで あることから開校以来この考えは続いている。
	5-27 課外活動に対する支援体制は 整備されているか	2	サークル規約下で、各種サークルの活動は運営されている。よって、課外活動の支 援体制は整備されていると考えている。その運営については、学生に主体的に関わら せ、外部とのコーディネートを職員がやっている。そのことにより学生自身に責任感 がでサークル自体が活気を帯びている。 大会にでるまでの、専門技術練習、体カトレーニングは、スポーツ・医療の学校とし ては、その過程が大いに実学となっており、学生が学ぶべきものが多いと考えてい る。ただし、活発になる程、対外試合が増える。また、怪我も多くなる。授業補講の日 程や怪我の予防は常に課題である。 学業との配分や管理体制は、学友会執行会議で確認し、学生の本分である学業へ の悪影響がないようにしている。	学園内で英語スピーチコンテストを実施し、英語サークルの学生が参加した。 ・柔道部: 東京都柔道整復学校協会柔道大会 個人戦全員勝利 ・陸上部: 全国専門学校大会 男子フィールドの部 2位 ・サッカー部: 東京都秋季大会 2部3位 ・バレーボール部: 全国専門学校大会 男子5位 ・野球部: 東京都専門学校軟式野球選手権大会ベスト8 ・バスケットボール部: 東京都専門学校バスケットボール大会秋季リーグ 男子 準優 勝、女子 準優勝 葛西地区にある学校が合同で活動できる「滋慶クラブセンター」と立ち上げ、初年度 硬式野球部とゴズペルサークルが活動した。
	5-28 学生寮等、学生の生活環境へ の支援は行われているか	2	学園の本部で寮生活者の支援は行っている。またひとり暮らしをしている学生にも冊 子を配布し、生活における注意事項などを伝えている。	マネー教育セミナー実施。今後の生活に必要な費用と収入(アルバイト代や奨学金 など)を比べ節約の必要性を伝える。
	5-29 保護者と適切に連携しているか	2	1年次と卒業年次に加え理学療法士科では3年次にも、保護者会を実施している。そ のことにより、在校中のさまざまな支援協力や国家試験に向けて保護者協力をお願 いし、良い成果をだしている。 学校の評価は、卒業生が卒業してから話す内容すべてであり、卒業生を大事にしな い学校に成長はない。そのため、何をすることが卒業生のためになるかを常に考え 企画する必要性を考え実践している。	5月: 1年生保護者会、卒業年次(柔整・鍼灸)保護者会 12月: 卒業年次保護者会、理学療法士3年次保護者会
5-30 卒業生への支援体制はあるか	2		同窓会を、技術講習会と併用する方法をとっている。年間2回だが学科別に開催 し、参加者の満足度は高い。課題はテーマである。 また再就職支援は、毎月数名の方に対して行なっている。	

6 教育環境	6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2	医療系資格養成校として、厚生労働省の認可、指定を受けている。各科に必要な設備、備品については細かく規定されており、3年毎に行われる「指導調査」を受けて、特に大きな指摘は受けておらず問題ないと考えている。メンテナンスについては、細かい修理などもグループ企業が担当しており、対応している。	スペシャリストとしての技術を磨くための最新施設や機器を完備し、プロの現場と同じ器具、同じ環境で実習授業を受けることで、学生の学習意欲を喚起し、専門就職、資格合格率向上につなげる。授業以外でも、個別の課題に取り組む環境を用意している。
	6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	2	学外実習・インターンシップ・海外研修を行うことで、学園の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」の全てと関わることになり、その教育効果は大きいものと考えている。	実習を重視し、多くの時間をそこに当てている点は本校の特徴である(PT)。海外研修は、3学科とも2年次にアメリカ(ロサンゼルス、サンフランシスコ)で実施している。
	6-33 防災に対する体制は整備されているか	2	防災、火災訓練は実施し、学生や教職員へ非難手順や方法を実施している。また備蓄水などを備えている。避難訓練にも、津波の遡上を想定して上位の階に逃げる訓練 学園全体では、「安否確認システム」を導入し、災害時に学生や職員の安否を携帯で確認できるようにしている。	・緊急地震速報設置済み ・防災訓練の映像化(DVD)がされており、学生・教職員・講師全員が視聴し、防災の意識を高めている。 ・AEDの設置 校舎入り口付近に自動体外式除細動器(AED)を設置している。 教職員には、使用方法の講習済みである。校舎入り口にシールを貼り、設置を知らせているので近隣の方々にも緊急の際使用できるようにしている。また、全学科で心肺蘇生法の授業も実施しており、心肺蘇生法技能検定も全員が取得するカリキュラムを組んでいる。
7 学生の募集と受け入れ	7-34 学生募集活動は、適正に行われているか	2	学生募集活動は、学則を基に、その年の入学案内、募集要項の通り、適正に行われていると考えている。	
	7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	2	就職実績はまさに本校の特色である。本校への入学をきめた学生の入学決定要因のトップは就職実績である。そのことから、就職実績は、学生募集に大いに貢献したと考えている。また、卒業生の活躍も学生募集には貢献している。 就職実績は単に、数字や企業・施設名だけではなく、職業がイメージできることが大切である。そのため、就職実績は、卒業生の活躍している姿を必ず掲載するようにしている(入学案内、各種進学媒体、ホームページ)。 資格取得も、なぜその職種に必要なのかを、卒業生の活躍とダブらせて告知することで、分かり易くなっているのではないかと考えている。	専門就職実績と専門資格実績の打ち出しは強化しており、募集上の効果は高い。資料請求媒体誌・入学案内・ホームページ・説明会と一貫性して繰り返し、上記実績を強みとする広報展開をしている。
	7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	2	学則を基にし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしている。	将来の希望分野への適性をきちんと見極めるため、面接の比重を多くしている。結果として、学力のみにとらわれない、モチベーションの高い学生確保に役立っている。
	7-37 学納金は適正かつ妥当なものとなっているか	2	学納金は適正かつ妥当なものと考えている。 また、財務の情報公開も私立学校法の改正の義務づけに合わせて、本校でも平成17年4月1日から法人単位での公開の体制を取っている。学納金が公正に使われているかを世に問うものとなっている。	入学以前の募集要項上において、事前に年間必要額を明示しているため、保護者に関しては年間支出計画が立てやすい。 また、高等学校在学者に対しても、日本学生支援機構の予約採用のアナウンスや教育ローンの案内をするなど、学費負担者の立場にたったのアドバイスを実施している。
8 財務	8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2	学園本部で統括する体制をとっているため、厳しいチェック及び評価が行われ、いわゆる債務超過や資金不足になる状況には至っていない。そのため、中長期的には財務基盤は安定し、本校の学校運営も安定していると考えている。 5か年計画に基づいた収支計画は中長期的な視点で物事を考えることができるため、財務基盤の安定に資するための大規模な計画もじっくりと立てることができ、この方針は今後も続けていくと考えている。	
	8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	2	予算編成の方法については短期的と中長期的に行っているのが妥当な方法と考えている。 5年を見越した中長期的事業計画を毎年立てその中で収支計画を作成しているが、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするためにより現実に対応した予算編成になっているものと考えている。学校の財務体制を管理し、健全な学校運営ができるように予算・収支計画は有効かつ妥当な手段として利用されている。	当初予算→四半期予算実績対比→修正予算→決算という流れの中で、収支計画が実現可能なものとなり、財務基盤の強化につながっている点が特徴として挙げられる。
	8-40 財務について会計監査が適正に行われているか	2	現在のところ、監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の意見が述べられており、適正な計算書類を作成していると考えている。 監査を有効に実施してもらうために、証憑書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓に努めている。	私立学校法上義務付けられている「監事による監査」を受けているが、それに加えて、補助金対象ではない当学校において「公認会計士による監査」も受けている。これによって適正な計算書類の作成とその信頼性の確保に努力している。
	8-41 財務情報公開の体制整備はできているか	2	財務情報公開の体制整備は平成17年4月1日には終了し、体制整備はできている。学園の特徴は、法改正の変化に迅速に対応できる機動力である。今後ともどんな法改正にも迅速に対応していくと考えている。	「財務情報公開規程」「情報公開マニュアル」によって、秩序整然たる順序に基づいて情報公開に対処している点が特徴として挙げることができる。

9 法令等の遵守	9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	2	法令や設置基準の遵守に対する方針は文章化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは、平成17、平成18年度で完全に整備させた。柔道整復科と鍼灸科は平成16年にカリキュラムや教員の件で改善指導が入ったが、平成17年には改善書を提出し、すでに改善済みである。その結果として、平成18年3月には、理学療法科も申請も受理される。改善指導は、真摯に受け止めて、その都度改善していく所存である。また、教職員の啓蒙として、法令や設置基準を遵守に対する教育または研修を、リーダーと実務担当者で実施している。	監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象としてコンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。
	9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	2	平成17年4月1日に個人情報保護の体制は完了している。今後は個人情報保護の教職員への啓蒙(=研修制度確立済み)と、その運営体制の整備に力を入れることを考えている。	外部機関の「TRUSTe」より国際規格の認証を獲得し、毎年個人情報保護管理状況についての検定を受け、ライセンスを更新し、ホームページ上に明記している。
	9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	2	毎年、自己点検・自己評価を実施している。私立専門学校評価機構に準じている。	私立専門学校評価機構に加盟している。
	9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか	2	毎年、自己点検・自己評価を実施している。私立専門学校評価研究機構に準じている。平成25年度に申請してた理学療法士科(I部・II部)が職業実践専門課程として認	
10 社会貢献	10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	2	滋慶学園をあげて、地球温暖化について真剣に取り組んでいる。ポスターやパネルなどを作り、校舎の数箇所に貼るなど啓蒙活動にも力を入れている。また、人間教育の一環としてゴミの分別なども啓蒙している。スポーツ大会、健康増進活動の運営サポートなどが中心ではあるが、今後オリンピックに向けて何らかの活動をしたい。	ボトルキャップ回収を行っている JEFとの協同事業:介護予防教室の運営 千葉県認定スポーツ指導者研修会のサポート:「いきいき健康教室」というテーマで、介護予防講座の実施 柔道大会(4回)でのトレーナーブースの運営 春高バレーでのトレーナーブースの運営 多摩地区ラグビー交流戦でのトレーナーブースの運営
	10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2	学生のボランティアについては、まだ始まったばかりなので今後の活動に期待したい。関係団体との申し出は極力断らない姿勢と連携強化の施策で活動の場を広げて行きたい。	滋慶学園チャレンジカップ柔道練成大会:(千葉県柔道連盟・千葉県高体連柔道専門部と連携) 継続11年 BJリーグファイナルの運営手伝い 新宿区区民体育大会の運営の手伝い
11 国際交流	11-48 グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか	1	インバウンド研修としてフランスよりエレガンスゴンター校の東洋医学研修を受け入れている。その際には学生交流を実施。今後、オリンピックを視野に入れ、語学研修も検討している。	